

飛躍

静岡県東部地域の活性化を考える

2013年度のあゆみ

C O N T E N T S

■ ごあいさつ	3
■ 2013年度のあゆみ	4
■ 特集Ⅰ ものづくり産業とファルマバレープロジェクトの連携支援……	6
■ 特集Ⅱ 県東部地域再生に向けた都市づくり支援……	10
■ 特集Ⅲ 新たな観光交流戦略の促進支援……	12
■ サンフロントから情報発信 ラジオEAST ……	16
新聞特集記事「風は東から」……	17
■ 2014年度活動方針	18
■ サンフロント21懇話会会員名簿	20
■ 運営委員長挨拶	27

ごあいさつ



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野光喜

サンフロント21懇話会は2014年度、設立20年目を迎えました。ファルマバレーやコンベンションなどタイムリーで地域に密着したテーマを設け、議論を深めてきました。会員皆様方の熱意の表れと感謝申し上げます。

2013年度は安倍政権の経済政策「アベノミクス」効果で円安・株高基調が続き、景気回復の兆しがうかがわれました。しかし地方や中小企業はその実感が乏しいのが現実です。

県内では今春闘で一律に基本給を引き上げるベースアップを行わず、若手中心に配分するとした企業もありました。経営環境の先行き不安を示す好例といえそうです。

特に気掛かりなことは今年4月から始まった消費税の税率アップです。政府は景気の腰折れを防ぐため企業減税を含め、6兆円規模の対策を打ち出しました。その成果を注視したいと思います。

県東部にはさまざまな課題がありますが、今春、サッカーJFLに参入したアスルクラロ沼津を応援し、スポーツを通じて地域の一体感を高めたいと思います。

会員皆様の旺盛な知恵と工夫、行動力を結集し、県東部も懇話会活動も、ともに前進できますようご支援、ご協力をお願いします。



静岡新聞社・静岡放送
会長

松井 純

富士山の世界文化遺産登録。JR沼津駅北口への大規模展示イベント施設のオープン。三島市と函南町を結ぶ東駿河湾環状道路の開通。県東部は2013年度も、大きな動きがありました。

このうち、大規模展示イベント施設は昨年6月29日に開館し、今年4月にオープンしたホテルと7月に開設予定の会議場施設と合わせて、会議、展示、宿泊が一体となった複合コンベンション施設として完全開業します。

富士山は世界文化遺産に登録されたことで、日本の宝から世界の宝になりました。伊豆半島は2015年度に世界ジオパーク(貴重な地形や地質を楽しめる「大地の公園」)の認定を目指しています。伊豆半島が世界ジオパークに認定されれば、世界が認める宝が県東部に2つも存在することになります。県東部初の総合コンベンション施設が交流人口の拡大につながることを大いに期待しています。

本年度は懇話会設立20年目です。この間、一貫して県東部の活性化を目指し、提言団体として地域の課題と向き合ってきました。会員皆様のご支援、ご協力に深く感謝するとともに、これまでも増して地域への情熱を注いでいただきたいとお願いする次第です。

2013年度のあゆみ

作家・評論家
塩田 潮

「安倍政権で日本はどう変わるか
-参院選とこれからの政治」



川島アソシエイツ代表
川島 久男

「国際会議の誘致戦略」



Jリーグ理事
傍士 銑太

「スポーツが伊豆を元気にする
-その発想と実践」



俳優・日本野鳥の会会長
柳生 博

「花鳥風月の里山」



日通総合研究所経済研究部担当部長
主任研究員

大島 弘明

「新時代の人と物の流れ」



生活経済ジャーナリスト
和泉 昭子

「正念場のアベノミクス
-消費増税と私たちの暮らし」



2013年度 活動方針

- ◇ ものづくり産業とファルマバレープロジェクトの連携支援
- ◇ 県東部地域再生に向けた都市づくり支援
- ◇ 新たな観光交流戦略の促進支援

◆ 2013年5月

活動記録「飛躍」発行

2012年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、28頁)を発行した。総会、分科会の活動の足跡をはじめ、ファルマバレープロジェクトや広域連携の促進、各分科会などの活動を掲載。2013年度の活動方針も紹介した。

◆ 2013年5月30日 150人出席

総会

沼津市内で開かれた2013年度総会には、会員企業経営者や首長、県議ら約150人が出席した。ファルマバレープロジェクト、コンベンション機能の推進、観光振興を軸にした活動方針を決めた。作家で評論家の塩田潮氏が記念講演した。

活動方針案を説明した井口賢明運営委員長は、交流人口の拡大や新産業創出、広域連携につながる支援の必要性を強調した。

◆2013年8月8日 150人出席
東部地区分科会

東部地区分科会には、約150人が参加。懇話会の提言がきっかけで実現した「キラメッセぬまつ」のリニューアルを受け、新生・キラメッセぬまつを含む東部の総合コンベンションセンター「プラサヴェルデ」の活用法を探った。基調講演の講師は川島アソシエイツ代表の川島久男氏。続くパネル討論は「コンベンションによる地域の活性化」をテーマに、プラサヴェルデを核にした地域振興策についてパネリストが意見を交わした。

◆2013年11月18日 150人出席
伊豆地区分科会

伊豆地区分科会ではスポーツを軸に伊豆の観光振興を図るスポーツツーリズムの可能性を探った。ITを活用した経営コンサルタント会社コンシスト役員でJリーグ理事を務める傍士銚太氏が「スポーツが伊豆を元気にする—その発想と実践」と題して基調講演した。

「スポーツが創る新たな観光市場」をテーマにしたパネル討論は、スポーツツーリズムを実践している4氏が登壇し、それぞれスポーツを通じた地域づくりへの思いや取り組みを語った。

◆2013年12月18日 180人出席
全体会

三島市内のホテルで開かれた全体会には、会員の企業や行政関係者ら180人が出席した。俳優で日本野鳥の会会長の柳生博氏が「花鳥風月の里山」をテーマに講演。「野良仕事は野を良くする仕事」と話し、自然の大切さを強調した。

◆2014年2月28日 150人出席
富士地区分科会

富士市で開かれた富士地区分科会は、日通総合研究所経済研究部担当部長主任研究員の大島弘明氏の基調講演に続き、「新東名沿線にビジネス・チャンスをつかめ」をテーマにパネル討論を行った。新東名高速道路など地域の強みを生かした経済活性化について、就任間もない小長井義正富士市長ら3氏が意見を交わした。

◆2014年3月27日
合同会議

幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議が、サンフロントで開かれた。運営委員長の井口賢明あさひ総合法律事務所長が、2014年度の活動方針案として「ファルマバレープロジェクトと『人と動物の未来センター』の連携支援」「コンベンション産業の推進支援」「広域防災の推進支援」「新たな観光交流戦略の促進と支援」を示し、主旨とともに取り組みの内容を説明した。



ファルマバレープロジェクトは、一貫して中小ものづくり企業が医療健康産業に参入することを後押ししてきました。プロジェクト開始から10年以上が経ち、国の研究資金の導入や地域ネットワークから新たな支援策も生まれています。



■ものづくり企業の技術を生かした医療機器開発が期待される

地域イノベーション戦略推進地域（国際競争力強化地域）に指定

同プロジェクトは昨年7月、国の「地域イノベーション戦略推進地域」に採択されました。これは、産学官金連携による地域イノベーションの創出や活力ある地域づくりを図るため、国が指定地域を集中的に支援する取り組みで、同プロジェクトの推進エリア東部12市町（※）が対象。同時に、12市町と商工団体、大学、金融機関で構成する「富士山麓ファルマバレー戦略推進協議会」の事業計画も採択されました。事業実施期間は5年間です。

事業計画では、同プロジェクトの中核的支援機関であるファルマバレーセンター（PVC）の連携調整機能を強化するため、大手製薬メーカーや医療機器メーカーに長年勤めたスペシャリストを採用。医療現場のニーズの発掘や、企業が持つ技術力を使った医療機器開発、研究成果の事業化、国内外の販路拡大をより強力で支援します。

同プログラムで展開する産業分野は、①がん分野における腫瘍マーカーや診断薬の開発②医療・介護

用ロボットの開発③今後の超高齢化時代に対応した医療・介護機器の開発、の3つ。昨年11月には地元向けに「地域イノベーション戦略セミナー」を開催し、新薬や医療用ロボット、医療機器開発の今後をPVCのコーディネーターが展望しました。また、今年2月には「産学官金連携フォーラム」を開催し、2013年度の事業報告などを行いました。

※沼津・三島・富士宮・富士・御殿場・裾野・伊豆・伊豆の国市、函南・清水・長泉・小山町



■富士山麓ファルマバレー戦略推進協議会の様子

医用機器エンジニアを次々輩出「F-met (エフメット)」の取り組み

富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム「F-met」は2009年度に文部科学省の科学技術振興調整費の採択を受けてスタートしました。富士山麓地域の中小企業を対象に、医療機器開発をリードする中核的な人材の養成と、企業の技術力を生かした医療機器開発を促進することを目的とし、薬事法や医用材料などの講義、機器の開発実習、インターンシップなどの講座を2年間かけて行いました。

昨年7月には、受講企業初の医療機器も誕生しました。

国の支援が終了した14年度からは、沼津高専の独自の取り組みとして継続。募集対象を県内全域へ拡大し、医療機器開発で必要となる薬事法の知識、



■実践的な授業が行われるF-met

医用材料・医療機器の基礎講座、医療現場・介護現場事情などを1年間、24回の講座で学びます。

県内生産額初の1兆円超 3年連続全国1位

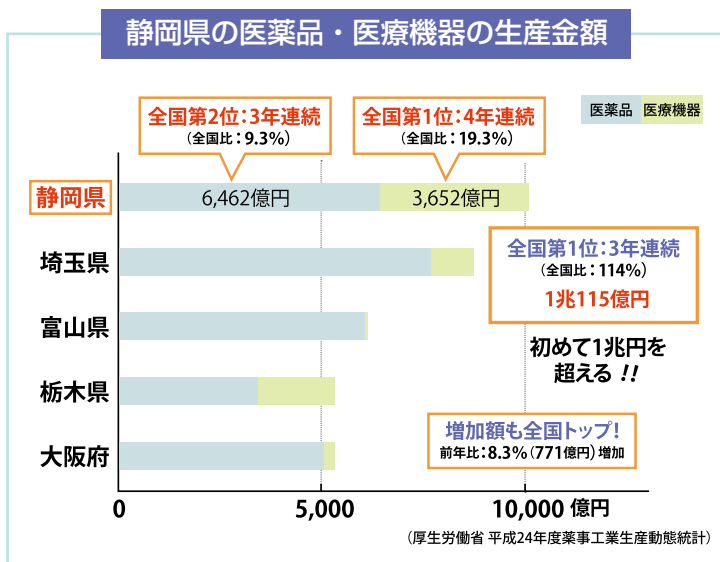
厚生労働省の2012年薬事工業生産動態統計年報で、本県の医薬品・医療機器の合計生産額が初めて1兆円を突破しました。3年連続の全国1位。1兆円突破は医療・健康産業の集積を図る県のファルマバレープロジェクト第3次戦略計画で目標に掲げた20年での

実現を大幅に前倒ししての達成です。

12年の本県の医薬品・医療機器合計生産額は1兆115億円（前年比8.3%増）。項目で見ると、医薬品が567億円増の6,462億円（同9.6%増）、医療機器が204億円増の3,652億円（同5.9%増）。

合計額は2位埼玉県の8,764億円、3位富山県の6,124億円に大差を付け、全国生産額8兆8,720億円の11.4%を占めました。

また、「ふじのくに先端医療総合特区」は、国が実施した2012年度の評価で全国第1位の高評価（総合評価A、点数5.0）を受けました。ファルマバレープロジェクトの着実な取り組みや、目標を上回る成果などが評価された形です。



県は、旧長泉高校跡地を活用し、医療健康分野への企業参入や製品化・販路拡大を加速させる新たな拠点施設を2015年度末までに開所する予定です。



■ファルマバレーの拠点として整備される旧長泉高校

ファルマバレープロジェクトの新拠点整備着々

今年2月に発表された概要では、敷地面積約4万3,600平方メートル（うち運動場2万3,800平方メートル）で、旧校舎と体育館を改修して活用するほか、新しく3つの建物を中小企業が研究開発に関わる施設として新築。

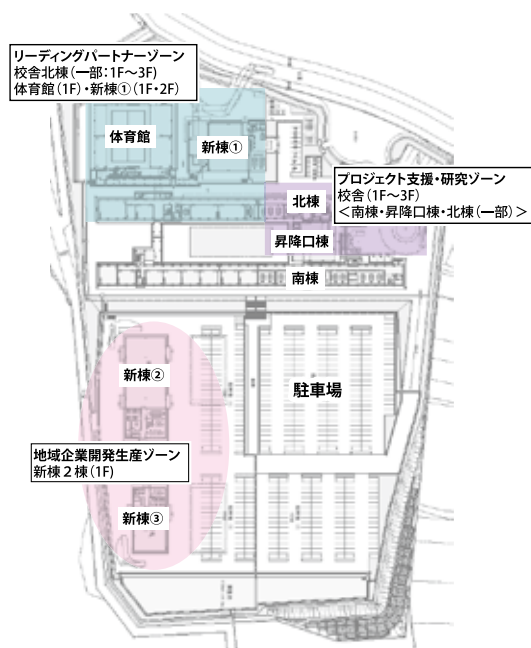
「プロジェクト支援・研究」「地域企業開発生産」「リーディングパートナー」の3ゾーンからなり、整備規模は延べ床面積1万6,500平方メートル程度となっています。

具体的には、医療機器分野への参入を目指す中小企業のワンストップ支援や研究開発と製造を一体的に行える開発生産施設を設置して地域企業の支援をさらに手厚くします。医療関係者や企業、研究者などが集う交流サロン、セミナー開催なども行います。

また、高度な技術シーズによる研究開発などを進めながら、地域企業への支援を積極的に行う機関（企業・研究機関など）をリーディングパートナーとして公募により誘致します。

プロジェクトの中核支援組織ファルマバレーセンターの事務所は現在の静岡がんセンター研究所か

ら移転、機能強化を図ります。県は、富士山麓ファルマバレー構想策定から10年の成果を踏まえ、世界一の健康長寿県の実現に向けてさらに活動を飛躍させていく予定です。



■ゾーン別機能一覧

ゾーン種類		施設	備考
プロジェクト支援・研究ゾーン	地域企業をワンストップで支援。テーマに即した製品開発を行う民間企業等が入居。	ファルマバレーセンター事務所	ファルマバレーセンターを移設
		研究室	医療健康分野の研究開発
		レンタルオフィス	企業組合、知財等のコンサルタント事務所、販社
		常設展示場	地域企業の製品等の展示
		講義室	医療人材、産業人材の育成
		セミナー室	同業種や他業種の交流セミナー等
		食堂、更衣室・仮眠室、休憩所	施設利用者向け利便施設
地域企業開発生産ゾーン	第二創業や生産拡大のため、研究開発と生産を一体的に行う地域中小企業が工場として活用。	レンタル工場	地域企業の開発生産工場（医療健康産業の創業等）
リーディングパートナーゾーン	高度な開発を進めながら地域企業を支援するリーディングパートナーが研究開発等に活用。	研究・開発棟など提案募集による	研究室、生産施設、事務室等

「健康」軸にまちづくり

三島市は、健康と福祉を基軸にしたまちづくりを目指す「スマートウェルネスみしま」や花と緑を都市に取り込んだ「ガーデンシティみしま」をまちづくりの両輪として推進しています。

「スマートウェルネスみしま」では、市民の健康寿命をのばす取り組みを加速中。「健幸マイレージ制度」の推進や三島のまち歩きアプリ「みしまあるく」の活用などを進めています。市民が健康になり、生涯を通じて社会参加や地域交流できるまちを目指す、また将来的には医療健康産業を中心とした産業振興にまで結び付けたい考えです。



■ 健幸マイレージ
ポイントカード



■ 「野良仕事とは、野を良くする仕事」と語る柳生氏

懇話会では、この動きに連動して昨年12月の全体会を同市で開催。俳優で日本野鳥の会会長の柳生博氏が「花鳥風月の里山」をテーマに、自然との共生のあり方や大切さを語りました。また、静岡新聞「風は東から」でも、ガーデンシティみしまを取り上げ、市民主体のまちづくりがどのように進んでいるのかを紹介しました。

県と沼津市がJR沼津駅北口に建設する県東部コンベンションセンターは今夏のグランドオープンに向け、準備が整いつつあります。MICE（集客イベントの総称）産業による県外からの消費をどの程度呼び込むことができるのか、地域一丸の取り組みが不可欠です。



■展示場・国際会議場・ホテルがそろうプラサヴェルデ

国際会議場の内覧会を開催

今年7月に全面開業するJR沼津駅北口の総合コンベンション施設「プラサヴェルデ」。開業に先駆け、施設の利用予定者や企業関係者向けの説明会を開きました。

施設の指定管理者コングレ・コンベンション静岡グループが、県内外から約100人を招き、完成間近の会議場施設を案内。参加者からはインターネット環境や国際会議用の同時通訳機能について熱心な質問が出ました。

プラサヴェルデは、会議場施設と、昨年6月に先行オープンした展示イベント施設「キラメッセぬまつ」、今春開業の「ダイワロイネットホテルぬまつ」で構成する県東部初の総合コンベンション施設。国内外からMICEを誘致し、地域の活性化に寄与することが期待されています。

4階建ての会議場施設は、県内最大級になる約1,100人収容可能なホールA（930平方メートル）や、音響効果に優れた400人収容のホールB（450平方メートル）などが設けられています。



■内覧会の様子

東部地区分科会で活用模索

東部地区分科会 2013.8.8

テーマ:

「コンベンションによる地域の活性化」

○ パネリスト

日本コンベンションサービス執行役員	広江 真氏
アニマルシステムセル代表取締役	窪島 肇氏
県文化・観光部交流企画局長	塚本高士氏

○ 進行

企業経営研究所常務理事	中山 勝氏
(サンフロント21懇話会シンクタンクTESS研究員)	

○ パネル討論要旨

広江氏は国際会議が多様化している点から「ブラサヴェルデのような多目的型施設は時代のすう勢に合う」と述べ、地域外に宣伝する組織と、開催場所として商品開発する組織に分けた体制構築を提案しました。

窪島肇氏は「全国から1,000人以上が集まる会議は主要都市だが、数百人の先端医療会議などは中核都市になる。研究者は開催地へのこだわりはない」と説明。「地域にある強みを発信し、その地域に行かざるを得ない理由を発信していけばよいのではないか」と語りました。

懇話会の提言がきっかけで実現した東部賑わいの拠点「キラメッセぬまづ」。東部地区分科会では、一足先に開業した新生・キラメッセぬまづを含む「ブラサヴェルデ」の活用法を探りました。



■川島氏 ■塚本氏 ■広江氏 ■窪島氏



■中山氏



■熱心な議論が交わされた

パネリストの提案に対し、塚本氏は「(誘致実現に向けた) 戦略をつくる必要性を感じている。重要なのは主催者のニーズを把握して解決策を提示すること」と対応を急ぐ考えを示しました。

「人と動物の未来センター」が沼津市西浦に

沼津市西浦に建設予定の「人と動物の未来センター」は、人間と動物の共生と「殺処分ゼロ」の社会の実現を目的に、何らかの事情で飼えなくなった犬や猫を引き取り、一定期間飼育し、しつけ・教育ができた犬・猫を新しい飼い主に譲渡していくことと、愛護団体などと連携した動物愛護の啓発や普及活動、獣医師や動物看護師の教育を行う施設です。

運営する公益財団法人「動物臨床医学研究所」によるブラサヴェルデでの学会開催や、国内外の動物愛好家の施設訪問などにより交流人口の拡大が図られ、県東部拠点都市・沼津市に、新たなにぎわいの創出が期待されています。



■沼津市西浦の建設予定地

富士山が世界文化遺産に登録され、国内外から多くの人々が県東部に訪れることが期待されています。環境保全の議論がある一方で、交流人口の拡大も地域にとっては課題。また東部では新たな観光テーマが育ってきています。



■世界文化遺産に登録された富士山

富士山が世界文化遺産に登録

昨年6月に、カンボジア・プノンペンで開催中のユネスコ（国連教育科学文化機関）世界遺産委員会は、日本政府が推薦した「富士山」（静岡県、山梨県）を世界文化遺産に登録することを決定しました。

世界遺産委員会の登録決定のポイント

- ▼富士山は日本の国家的象徴で、その影響は日本をはるかに超えている
- ▼名称は「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」
- ▼三保松原の資産価値を認め、構成資産から除外しない
- ▼登山を通して山の神から霊力を得る富士山信仰は独特
- ▼葛飾北斎や歌川広重の浮世絵版画に創造的刺激をもたらし、世界に影響を与えた
- ▼2016年2月1日までに保全状況報告書を提出する



■富士山本宮浅間大社

県は、世界遺産富士山の保全管理や情報発信の総合的な拠点「富士山世界遺産センター（仮称）」を富士宮市の富士山本宮浅間大社近くに建設することを決めました。市有地や民有地など約7,300平方メートル。県東部7市町が建設候補地9カ所を推薦し、有識者の意見を踏まえて県が選定しました。基本コンセプトは『守る、伝える、交わる、究める』。2016年度の完成を目指しています。

スポーツをテーマに観光振興

伊豆地区分科会 2013.11.18

テーマ:

「スポーツが創る新たな観光市場」

○ パネリスト

Jリーグ理事	傍士 銚太氏
伊豆市長	菊地 豊氏
スポーツマネジメント社長	脇田 英人氏
アスクラロスルガ社長	山本 浩義氏

○ 進行

シード副社長	青山 茂氏 (サンフロント21懇話会シンクタンクTESS研究員)
--------	-------------------------------------

○ パネル討論要旨

菊地市長は、市内に点在するさまざまな用途の運動施設や選択肢の多い宿泊施設、温泉などスポーツ関連の誘客に適した要素を紹介。誘客に向け、伊豆半島の各市町が持ち味を生かして広域連携する必要性を訴えました。脇田社長は、スポーツ合宿に特化した地域の事例を挙げ「伊豆は首都圏から近い好立地。温泉や自然環境はスポーツをした後の付加価値になる」と利点を述べました。

伊豆地区分科会は、伊豆の地域資源を生かしたスポーツツーリズムの振興について、各パネリストが意見を交わしました。



■ 菊地氏



■ 脇田氏



■ 山本氏



■ 傍士氏



■ 青山氏

サッカーJ3への参入を目指すアスクラロスルガの山本社長は「プロチームになればメディアに取り上げられ、アウェーチームのサポーターが訪れる」と地域への波及効果を強調しました。

選ばれる観光地になるために



■ 太田専務理事

昨年4月の「風は東から」では、県観光協会の太田忠四郎専務理事に今後の東部観光について伺いました。

太田氏は「観光とは優れたものに光を当てるという意味。自分の住んでいる地域をよく

知り、住民が誇りに思える地元の宝をどう発見し、光を当て形にするか。食べ物、神社仏閣、景観一調べていくと、たくさんある」と語り、伊豆の観光について「個々の観光地の個性が強く、なかなか一つになれないと聞く。お客さまに合わせて地域がつながることが大切で、伊豆全体を何かでつなげる、つながるものを考えていきたい」と「連携」の重要性を強調しました。

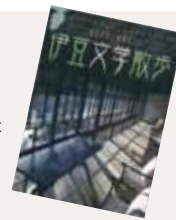
● 伊豆トレイルジャーニー

伊豆市をスタートし、松崎町まで約75^{キロ}の道のりを走るトレイルランニング。2013年から始まり、国内外1,500人が参加する。大会コンセプトは「新しい伊豆の旅の創造」。火山活動で育まれた伊豆のコンパクトで変化に富んだ地形を生かし、文化や地域の人々と一体で持続可能な伊豆の楽しみ方を提案しています。



● 伊豆文学散歩

古くから文人墨客を惹きつけてきた伊豆半島。県はここで生まれた文学作品や作家のエピソードを今までにない切り口で一冊のガイドブックにまとめました。新しい伊豆散策のツールとして、県の伊豆文学フェスティバルなどで配布するほか、全国の旅行会社に配布されています。



今年2月11日に東駿河湾環状道路が供用開始し、東名・新東名沼津インターから修善寺までが30分で結ばれるようになりました。この機会をどう地域活性化に結び付けるか、懇話会ではさまざまな角度から可能性を探りました。



■富士山の雄姿が楽しめる東駿河湾環状道路

新しい伊豆の玄関口が誕生—東駿河湾環状道路



■大儀所長

は地域がバラバラに行っておりうまく連携が取れない」と地元の声を紹介しながら、伊豆全体でPRする枠組みとして、伊豆にある6つの道の駅を活用したネッ

「風は東から」では、国土交通省沼津河川国道事務所の大儀健一所長に道路開通を契機にした地域振興策について伺いました。

大儀所長は「伊豆は一つと言いながら、観光情報の発信

を契機にした地域振興策について伺いました。

トワークを構築。情報発信機能として、ゲートサインの設置、道の駅への大型モニターの設置、ワイファイスポットの設置などを挙げました。

また、防災面からも地域に高規格の縦軸を持つことが重要と語り、地元と協議しながら伊豆縦貫道の早期実現に向けた活動をしていくと語りました。



■道路啓開(けいかい)検討会議

北関東が直接誘客のターゲットに

東駿河湾環状道路に続き、今年6月には圏央道が開通予定です。これにより、伊豆半島が直接中央自動車道、関越自動車道と接続し、国の試算では川越～修善寺間が2時間40分に短縮されます。圏央道が開

通すると、都心環状線を通らずに中央道や関越道から直接伊豆半島に接続できるため、特に海のない北関東からの誘客ルートの拡大に期待が高まります。

国土交通省沼津河川国道事務所は東駿河湾環状



■拡大する道路網

道路の供用に向け、関東の旅行会社へ道路の整備効果や伊豆の魅力をPRしようと「開通前道路の実走体験と伊豆地域観光商談会」を開催。参加した大手旅行会社の担当者は「課題だった渋滞が解消されただけでは客は来ない。海越しに見る富士山のように、ほかにない魅力を伊豆全体で提案してほしい」と注文を付けました。



■伊豆地域観光商談会の様子

富士地区分科会では流通について討論

富士地区分科会 2014.2.28

テーマ：
「新東名沿線にビジネス・チャンスをつかめ」

富士地区分科会は「新時代の人と物の流れ」と題して、経済活動を支える物流の変化や今後について討論しました。

○パネリスト

富士市長	小長井義正氏
日通総合研究所経済研究部担当部長	大島 弘明氏
レイライン社長	小松みゆき氏

○進行

静岡経済研究所理事 大石 人士氏
(サンフロント21懇話会シンクタンクTESS研究員)

○パネル討論要旨

小長井氏は、地域振興策「都市活力再生ビジョン」を掲げて、インフラや防災面の整備で民間資本の呼び込みを図ると強調しました。

物流事情に精通する大島氏は東名高速道路、国道1号から見た富士地域のポテンシャルに言及。また、複数のアクセスの存在は有利と述べました。

小松氏は、富士地域に訪れる外国人の増加傾向を挙げ、「富士駅で降りて、陸橋から富士山を写真に撮る外国人が多い。地元では何気ない風景が、よその人にとっ



■大島氏



■小長井氏



■小松氏



■大石氏



■熱心に聞き入る会場

ては絶景ポイント」と隠れた魅力の発掘を求めました。最後に進行の大石氏が「新東名開通というインパクトを生かした取り組みが不可欠」とまとめました。

サンフロントから情報発信

ラジオ EAST

<http://www.at-s.com/sbsradio/program/east/>

SBS ラジオ 毎週土曜日

11:00 ~ 12:55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部・伊豆の地域情報を2時間にわたりお届けする「Radio*East」。清水町の大型ショッピングセンター、サントムーン柿田川内に開設されたサテライトスタジオ「LISPA」は東部・伊豆の情報発

信、文化創造拠点としてにぎわいを見せています。

番組恒例の公開放送は全部で7回。各地のイベントや魅力スポット、地元でしか食べられないご当地グルメ情報などをお送りしています。



■ ラジオ EAST ホームページ

ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「EAST食べちゃうぞ!」や「温泉へ行こう!」など、各コーナーはバックナンバーも充実。東部・伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.at-s.com/sbsradio/program/east/>



新聞特集記事「風は東から」

<http://www.sunfront21.org/>

静岡新聞東部版・朝刊

毎月 第4日曜日掲載

東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、サンフロント21懇話会の活動の一端を毎月1回、新聞紙上で紹介する「風は東から」。

連載16年目を迎え、去年は富士山世界文化遺産登録への期待や、東駿河湾環状道路の開通などを取り上げました。また、スポーツを観光にどのように生かすかについても考えました。



新聞特集記事 「熱き地域人」

本紙に連載。地域振興に取り組む懇話会会員の「熱き思い」をインタビュー形式で紹介しています。



■ サンフロント21 懇話会 ホームページ

サンフロント21懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨・沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/index.html>

2014 年度活動方針

■ ファルマバレープロジェクトと「人と動物の未来センター」の連携支援

ファルマバレープロジェクトの一環として2011年度に、当懇話会が県に提言した「人と動物の未来センター」計画は沼津市西浦地区で2015年度開設に向け始動した。当施設は動物臨床医学研究所「人と動物の会」が運営し、国内初の人と動物の共生拠点を実現するプロジェクトであり、2015年度を迎える懇話会設立20周年の記念事業に位置づける。当施設は学会や大会、イベントの開催などを通じ交流人口の拡大に寄与することが期待されるため、事業の円滑な推進、実現を引き続き支援する。



■ コンベンション産業の推進支援



沼津駅北口で県、沼津市が整備中の総合コンベンション施設が7月に全面開業する。昨年6月先行オープンした展示イベント施設（新生・キラメッセぬまづ）に加え、民間のホテルが4月にオープンした。会議場施設が7月の開業を見込み、複合一体型コンベンション施設が誕生する。大型会議の誘致などで都市間競争を勝ち抜くためには会議、展示、宿泊の一体的連携に加え、アフターコンベンションの充実が欠かせない。

県東部20市町に広域連携推進の機運醸成を促す。



■ 新たな観光交流戦略の促進と支援

昨年の富士山世界遺産登録で国内外からの観光客が増えている。伊豆半島ジオパーク（貴重な地形や地質を楽しめる「大地の公園」）は2015年度世界ジオパーク認定を目指し市町連携が拡大している。ともに身近な地域資源を世界的視野で活用できる素材であり観光交流の視点から支援を継続する。スポーツが持つ地域への波及効果に着目し、今春誕生したサッカーJ3参入を目指す地元チームを支援する。ホームチームの存在が心の一体感を生み、一段の市町連携につながるよう支援する。



■ 広域防災の推進支援

2011年の東日本大震災は大規模災害への行政単独での対応に限界を示した。特に年間4000万人近い観光客が訪れる伊豆半島では地域の生活者に加え、観光客の安全・安心の確保という使命がある。東駿河湾環状道路を広域防災推進の柱と位置づけ、伊豆方面への整備と同時に西区間（沼津市岡宮-同市原、延長7.9キロ）の早期整備を訴える。2014年度は東海・東南海・南海の3連動地震対応訓練が予定されている。広域防災への意識をこれまで以上に高め、大規模災害への対応力向上を訴える。



会員名簿

● 会員 (2013年度)

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
青山 茂	(株)シード	取締役副社長	内田 進	熱海商工会議所	会頭
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長	内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
秋元 久則	(有)静岡ビジネスサポート	代表取締役	内田 繕博	清泉クリニック整形外科	院長
秋山 勇雄	(株)静岡新聞社	常務取締役	内野 徹太	大岡建設工業(株)	代表取締役
秋山 佳彦	(株)秋山機器	代表取締役社長	内山 義郎	スルガ銀行(株)	常務取締役
浅田 徹	(株)静岡伊勢丹	代表取締役社長	宇野 統彦	(株)桃中軒	代表取締役会長
浅羽 愛子	あさば旅館涵翠閣	代表取締役	梅本 和熙	南伊豆町	町長
芦川 勝年	沼津市商店街連盟	会長	漆畑 昌宏	静岡放送(株)	ラジオ局長
足立 吉松	足立会計事務所	所長	海野 和雄	静岡ガス(株)東部支社	常務執行役員東部支社長
綾部 恵市	(株)綾市商店	代表取締役社長	遠藤 茂美	日本ガス興業(株)	代表取締役社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役	遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長	遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	遠藤日出夫	長泉町	町長
池田 誠	池田病院	院長	大石 人士	(一財)静岡経済研究所	理事
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役	大石 剛	(株)静岡新聞社	代表取締役社長
石井 誠	(株)石井組	取締役副社長	大浦 孝雄	愛車の救急車(有)	代表
石井 文弥	東海自動車(株)	代表取締役社長	大木 康雄	(株)関電工静岡支店	支店長
石川 三義	社会福祉法人春風会	理事長	大儀 健一	国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所	事務所長
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長	大塩 秀樹	黄瀬川自動車学校	代表取締役社長
石川 征雄	(株)ミツイシ	代表取締役	大須賀紳晃	(株)静岡新聞社	取締役編集局長
石戸 安伸	静岡県東部農林事務所	所長	太田 克彦	(株)ブレーン	取締役社長室長
石間 尚雄	(株)TOKAIケーブルネットワーク	常務取締役	太田 長八	東伊豆町	町長
板倉 正	Knt 近畿日本ツーリスト(株)沼津支店	支店長	大嶽 正泰	宗教法人三明寺	代表役員
伊丹 秀之	(有)松韻	代表取締役社長	大坪 檀	静岡産業大学	総合研究所所長
伊藤 澄男	(有)澄企画	代表取締役	大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
伊藤 高義	富士川まちづくり(株)	代表取締役社長	大橋 弘	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長
伊東 哲夫	伊東法律事務所	所長	大村 保二	沼津市商工会	会長
稲田 精治	三島信用金庫	理事長	大村 義政	沼津埠頭(株)	代表取締役
稲葉 常宏	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長	小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
稲葉やす子	静岡県総合健康センター	技監	小笠原久幸	日本電気(株)沼津支店	支店長
乾 朋義	(株)大村総業	代表取締役社長	岡野 光喜	スルガ銀行(株)	代表取締役社長
岩田 均	SBS マイホームセンター(株)	代表取締役社長	小川 満	静岡放送(株)	報道局長
植草慎一郎	(株)康報社植草新聞店	代表取締役社長	荻田 勝雄	富士急シティバス(株)	相談役
植田 勝智	(公財)静岡産業振興財団ファルパレーセンター	所長	奥田 一	(株)静岡中央銀行	取締役会長
植田 康大	静岡県富士財務事務所	所長	刑部 治	(有)啓伸社刑部新聞店	代表取締役
上野 充史	(株)エム・エス・エス	総務・経理部長	音羽 徹	日本製紙(株)富士工場	執行役員富士工場長
植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役	小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
臼井 良太	臼幸産業(株)	代表取締役	小野登志子	伊豆の国市	市長
宇田川 茂	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長	小原 佳裕	小原自動車工業(株)	代表取締役

氏名	会社名	役職
貝原 敏哉	貝原司法書士事務所	代表者
影山 桓義	(株)影山運輸	代表取締役
梶 充伸	静岡県東部健康福祉センター	所長
片淵 典利	(株)港	代表取締役
片山 劫	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長
勝又 寛治	(株)沼広	代表取締役
勝又 安彦	(株)勝又新聞店	代表取締役
桂 英治	静岡放送(株)	代表取締役社長
加藤 和彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 修一	(株)加藤工務店	代表取締役
加藤 博彦	(株)メディアクリエイト	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	(学)加藤学園	副理事長
神尾 啓治	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長
神谷 真好	静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター	センター長
神谷 義之	静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター	センター長
河西 幸一	明德建設(株)	代表取締役
川原崎康雄	(株)マキヤ	代表取締役
菊地 広明	大東紡エステート(株)	取締役社長
菊地 豊	伊豆市	市長
杵島 栄二	(有)高商	代表取締役
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	(株)静岡新聞社	代表取締役専務
木戸 英壽	沼津商工会議所	専務理事
君澤 安生	(株)CFSコーポレーション	取締役
木宮 健二	富士常葉大学	学長
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
楠山 俊介	下田市	市長
栗原 裕康	沼津市	市長
栗本 泰行	総合警備保障(株)沼津支社	支社長
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長
河野 貢	(株)かめや	代表取締役社長
小島 一彦	(株)オトワコーエイ	代表取締役
小島し乃ぶ	三友水処理(株)	代表取締役
小滝 勝昭	富士信用金庫	理事長
小滝すみ子	(株)三喜	代表取締役

氏名	会社名	役職
後藤 全弘	(株)ゴトー	相談役
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役会長
後藤 信昭	沼津市立病院	病院長
小長井義正	富士市	市長
小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
込山 正秀	小山町	町長
近藤 安敞	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
齋 秀	(株)東海建設コンサルタント	代表取締役
七種 精一	シードテクノ(株)	代表取締役
齋藤 研一	沼津リバーサイドホテル	顧問
齊藤 栄	熱海市	市長
齊藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齋藤 哲一	(株)三幸コーポレーション	代表取締役社長
齊藤 弘幸	(株)東海ソフトウェア	代表取締役社長
齊藤 文彦	松崎町	町長
齋藤 稔	(株)齊藤組	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
坂本 光司	法政大学大学院 政策創造研究課	教授
佐々木 尋	東京海上日動火災保険(株)静岡自動車営業部	沼津営業課長
佐々木道武	大成有楽不動産(株)浜松営業所	浜松営業所長
佐藤 貢一	米久ベンディング	専務取締役
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 孝行	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
佐藤 秀樹	(株)サトウ商会	代表取締役
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役管理部長
佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
澤野 幸男	スルガカード(株)	代表取締役専務
塩坂 幸信	静岡県富士農林事務所	所長
塩崎 崇	(有)塩久商店	代表取締役社長
篠原 寛	富士宮信用金庫	理事長
篠原 光秋	静岡放送(株)	取締役総務局長
斯波 幹和	(株)サン	代表取締役社長
柴田 昌彦	(一社)伊東観光協会	会長
清水 郁英	日本通運(株)静岡警送支店	支店長
清水 直樹	日本興亜損害保険(株)沼津支社	支社長
清水 範己	日本生命保険相互会社	支社長
庄司 清和	(株)時之栖	代表取締役会長

会員名簿

● 会員 (2013 年度)

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
杉浦 悌秀	(株)ユタカ	代表取締役	土屋 敏博	(株)東報	代表取締役社長
杉山 定久	南富士(株)	代表取締役	土屋 俊幸	(株)静岡銀行	常務執行役員東部カンパニー長
杉山 雄一	(株)杉山鉄工	代表取締役	土谷 直人	ニッセー防災(株)	代表取締役
須沢 隆弘	(株)東広	代表取締役	土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長	土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役
鈴木 和宏	御殿場高原ビール(株)	代表取締役	土屋龍太郎	土屋建設(株)	社長
鈴木 達也	アフラック沼津支社	支社長	堤 親朗	(株)イブラシ	代表取締役
鈴木 経康	沼津情報・ビジネス専門学校	校長	土井 宣博	(株)雅心苑	代表取締役社長
鈴木 文三	サンコー防災(株)	代表取締役	土居 弘幸	岡山大学大学院	教授
鈴木 雅春	静岡県賀茂地域政策局	局長	轟木 裕史	(株)アルテクス	代表取締役
鈴木 道也	南駿農業協同組合	代表理事組合長	土村 暁文	静岡県東部地域政策局	次長
鈴木 幸彦	清水物産(株)	代表取締役社長	豊岡 武士	三島市	市長
須田 徳男	(株)MYコミュニケーションズ	代表取締役会長兼社長	鳥居 清美	(株)エイワンスポーツプラザ	代表取締役
須藤 秀忠	富士宮市	市長	永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	長澤 一成	(株)耕文社	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	会長	中島 達也	SMBC日興証券(株)沼津支店	支店長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長	中嶋 三恵	(株)山六ひもの店	代表取締役
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役会長	中西 芳弘	静岡県沼津財務事務所	所長
芹沢 和彦	東タイ(株)沼津工場	工場長	永橋 克介	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長
相馬 宏行	河津町	町長	中村 仁	伊豆箱根鉄道(株)	代表取締役社長
高木 宏通	静岡県下田財務事務所	所長	中村 誠	島津急送(株)	代表取締役
高瀬 直樹	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長	中山 勝	(一財)企業経営研究所	常務理事
高田 大輔	ニューデルタ工業(株)	代表取締役社長	西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長
高村 謙二	裾野市	市長	西島 洋司	医療法人社団親和会西島病院	理事長
高柳 和弘	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長	新田恭一郎	(株)ホテルサンバレー	代表取締役
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役	丹羽 亨	(株)大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店	店長
辰巳 充弘	沼津観光開発(株)	代表取締役	野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長
立岩 紀尚	西日本電信電話(株)沼津支店	支店長	萩原 仁	(株)JTB 中部沼津支店	支店長
田中 伸幸	ブラサヴェルデ	館長	服部巖一郎	(株)チキリ	代表取締役社長
田中 宏明	静岡県熱海土木事務所	所長	花房 孝光	(株)はなぶさ旅館	代表取締役
谷川 治	(株)静岡新聞社	常務取締役	羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役会長
田村 治義	ニューウェルサンピア沼津	総支配人	林 和子	ハヤシ工業(株)	代表取締役
田村 泰樹	積水ハウス(株)沼津支店	支店長	原 和也	(株)静岡新聞社	取締役東部総局長
千葉 慎二	(株)鈴木工務店	代表取締役社長	原 浩之	(学)原学園専門学校白寿医療学院	理事長
塚本 涼太	キリンビールマーケティング(株)	営業部長	原口 茂	富士商事(株)	代表取締役
佃 弘巳	伊東市	市長	一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
辻 明久	(有)メイク・エンタープライズ	代表取締役	日比野勇志	野村証券(株)沼津支店	支店長
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役	日向 秀二	(株)日弘商会	代表取締役
土屋 誠司	(株)富士和	代表取締役会長	兵藤 真一	MOAインターナショナル	広報担当

氏名	会社名	役職	氏名	市町	役職
日吉 晴久	(株)テクノサイエンス	代表取締役	森田 金清	(一社)熱海市観光協会	代表理事
平井 克弘	スルガ銀行(株)	執行役員本店長	矢田 利雄	沼津米穀卸(株)	代表取締役社長
平野 忠幸	静岡県下田土木事務所	所長	矢田部正巳	三嶋大社	宮司
福島 和幸	静岡県賀茂健康福祉センター	所長	柳下 福藏	(独)国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校	校長
藤井 武彦	西伊豆町	町長	山内 倭子	(株)東興	代表取締役
藤浪 哲也	静岡県田子の浦港管理事務所	所長	山形 武弘	(社)三島市観光協会	会長
古川 敏男	静岡県熱海財務事務所	所長	山下 郁夫	(株)三鮮商事	代表取締役
古郡 眞二	(有)マルニ茶業	代表取締役	山田 憲市	(株)コスモスケアサービス	代表取締役
古屋 英将	(株)ミロク	代表取締役	山田 司	(株)静岡新聞社	東部総局次長兼業務部長
堀田 大洋	沼津信用金庫	相談役	山田 壽次	三島函南農業協同組合	代表理事組合長
堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長	山中 利之	(株)山中兵右衛門商店	代表取締役
堀口 武彦	大同工業(株)	代表取締役	山本 修	静岡県賀茂農林事務所	所長
堀野 徹	静岡県富士土木事務所	所長	山本 博保	清水町	町長
増島 清治	丸忠デジタル(株)	代表取締役	山本 弥之	(株)太洋社	代表取締役
増島 康行	静岡県沼津土木事務所	所長	山本 浩義	アスクラロスルガ(株)	代表取締役
松井 純	(株)静岡新聞社・静岡放送(株)	取締役会長	山本 倫弘	税理士法人奈良橋・山本会計事務所	代表社員
三浦 洋一	大和ハウス工業(株)沼津支店	支店長	横山 滋	サンワフーズ(株)	代表取締役専務
三澤 清利	特種東海製紙(株)	代表取締役社長	横山 秀雄	(株)静岡新聞社	読者プロモーション局長
水崎 充	ネットヨタスルガ(株)	代表取締役社長	吉田 徹	富士通(株)静岡東部支店	支店長
三津濱元一	富士通(株)沼津工場	工場長	若林 洋平	御殿場市	市長
峰田 武	(公財)佐野美術館	理事長	和久田恵子	(株)ダイワ・エム・ティ	代表取締役社長
宮尾 賢一	(株)損保ジャパン静岡支店沼津支社	支社長	渡辺 国義	静岡県中小企業団体中央会東部事務所	所長
宮下 功	米久(株)	代表取締役社長	渡辺幸一郎	(株)三島新聞堂	代表取締役
宮本 修	(株)キクチ	代表取締役	渡辺 忠昭	三島商工会議所	専務理事
三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役	渡邊 治彦	(株)静岡新聞社	取締役社長室長
村上 昇男	(株)落合楼村上	代表取締役	渡邊 昌信	(株)電業社機械製作所	相談役
村田 潔春	(株)SBSプロモーション	代表取締役	渡辺 光和	ネットヨタ静岡(株)	代表取締役社長
村松 重治	(株)静岡新聞社	取締役営業局長			
村松 夏夫	(株)静岡新聞社	常務取締役			
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役			
最川 治久	(株)モガワ	代表取締役会長			
望月耕二郎	(株)旭学園	理事長・校長			
望月 由郎	(株)SBS情報システム	代表取締役社長			
森 一浩	ひばり税理士法人	代表社員			
森 貴志	静岡県東部地域政策局	局長			
森 延彦	函南町	町長			
森 久人	(有)アラリシップビルダーズ	代表取締役			
森 正憲	(株)安心堂沼津店	店長			
森崎 祐治	静岡コンサルタント(株)	代表取締役			

幹事・委員

幹事（50音順、敬称略）

氏名	会社名	役職	住所
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭	富士市
岡野 光喜	スルガ銀行(株)	代表取締役社長	沼津市
奥田 一	(株)静岡中央銀行	取締役会長	沼津市
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長	伊東市
土屋 俊幸	(株)静岡銀行	常務執行役員東部カンパニー長	沼津市
宮下 功	米久(株)	代表取締役社長	沼津市
堀田 大洋	沼津信用金庫	相談役	沼津市
三澤 清利	特種東海製紙(株)	代表取締役社長	駿東郡
峰田 武	(公財)佐野美術館	理事長	三島市
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市

運営委員（50音順、敬称略）

氏名	会社名	役職	住所
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	駿東郡
伊東 哲夫	伊東法律事務所	所長	沼津市
宇野 統彦	(株)桃中軒	代表取締役会長	沼津市
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役	三島市
片山 劼	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長	裾野市
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	駿東郡
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役会長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

<アドバイザー>

大坪 檀	静岡産業大学	総合研究所所長
坂本 光司	法政大学大学院 政策創造研究課	教授
土居 弘幸	岡山大学大学院	教授

< TESS 構成員 >

西島 昭男	(株)シード	委員長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
羽野 久雄	羽野水産(株)	顧問
宇野 統彦	(株)桃中軒	委員
小野 徹	小野建設(株)	委員
諏訪部照久	(株)スワベ商会	委員
青山 茂	(株)シード	研究員
大石 人士	(一財)静岡経済研究所	研究員
中山 勝	(一財)企業経営研究所	研究員
土村 暁文	静岡県東部地域政策局	研究員



2013年度を振り返って

サンフロント21懇話会 運営委員長
あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

2013年度は富士山が世界文化遺産に登録され、その存在があらためて注目されました。JR沼津駅北口に大型展示イベント施設がオープンしたほか、三島市と函南町を結ぶ東駿河湾環状道路が開通するなど、県東部の活性化に向け、新たな息吹を感じる一年となりました。


このうち、大型展示イベント施設は今年4月にオープンしたホテルと7月に完成する会議場施設と一体となり、総合コンベンション施設として本格開業します。県東部には世界文化遺産の富士山をはじめ、伊豆、箱根などの観光地や温泉、海の幸、山の幸に恵まれ、充実したアフターコンベンションが期待できます。

沼津市西浦で計画されている「人と動物の未来センター」も、国内外から関係者を集めた会議やセミナーなどがコンベンション施設で開催されれば、これまでにない交流人口の増加が見込めます。

ただし、単に、にぎわいを追及するだけであってはなりません。

例えば富士山の世界文化遺産登録は、その自然環境などを守り、次代に引き継ぐという大きな責任が伴います。これは決して忘れてはなりません。

忘れてはならないといえ、今年発生から3年がたった東日本大震災の復興です。震災そのものからは家族や地域の「絆」の大切さを痛感させられたわけですが、大規模災害が発生した場合、市町の連携が不可欠だということです。小さな自治体が大規模災害に単独で対応することは難しく、特に住民の安全・安心を担う防災、医療・福祉は複数の自治体が連携し、情報を共有することが欠かせません。時代は大きく変化しています。会員皆様のご支援、ご協力を重ねてお願いする次第です。

The logo for Sunfront 21 features a stylized treble clef on the left, followed by the text "サンフロント" in a bold, sans-serif font, and "懇話会" in a smaller font below it. To the right of this is a large, stylized number "21".

サンフロント
懇話会 21 <http://www.sunfront21.org/>

■発行/2014年 5月20日

〒410-8560沼津市魚町1番地サンフロント5F 静岡新聞社・静岡放送東部総局内 サンフロント21懇話会事務局 TEL.055-962-6520